

会 議 録

1 会議名

平成30年度 第2回和田区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

（1）平成30年度地域活動支援事業について（報告）（公開）

（2）自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について（公開）

3 開催日時

平成30年7月6日（金） 午後6時31分から午後7時00分まで

4 開催場所

ラーバンセンター 第4研修室

5 傍聴人の数

0人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く）氏名（敬称略）

・委員：水澤俊彦（会長）、橋本 勲（副会長）、秋山澄子、有坂正一、
泉 幸雄、岩澤 弘、植木泰行、小林春男、高橋善昭、土屋史郎、
前川正治

・事務局：南部まちづくりセンター 佐藤センター長、佐藤係長、小林主任

8 発言の内容

【佐藤係長】

・市橋委員、笠原委員、平原委員を除く11名の出席があり、上越市地域自治区の設置に関する条例第8条第2項の規定により、委員の半数以上の出席を確認、会議の成立を報告

・同条例第8条第1項の規定により、議長は水澤会長が務めることを報告

【水澤会長】

・会議の開会を宣言

・会議録の確認：岩澤委員に依頼

次第2「議題等の確認」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料により説明。

—平成30年度地域活動支援事業について（報告）—

【水澤会長】

次第3報告（1）「平成30年度地域活動支援事業について（報告）」に入る。

事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

資料No.1により報告。

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

—自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について—

【水澤会長】

次第4議題（1）「自主的審議事項 雪を生かした地域づくりの推進について」に入る。

前回の会議では、高士地区雪まつり実行委員会の視察研修の報告を受け、和田区で雪まつりイベントを実施し、それに伴う実行委員会を立ち上げる場合、どのような人に声を掛けて、どのような人にリーダーになっていただくかを中心に意見をいただいた。

高士地区での雪まつり実行委員会への視察の結果については、この前の会議で話したところだが。この和田区で雪まつりイベントを実施した時に、それに伴う実行委員会の立ち上げと、その時にどんな人に声を掛けるか、どのような人にリーダーになってもらって、その実行委員会を運営していくか。先般会議の中で少し話が出たが、和田地区振興協議会があって、町内会長会、商工会、農対、農家組合長会、

土地改良区という5団体で構成されているが、なかなか若い人がいないということで、今の振興協議会の組織では、継続的にイベントを計画してもなかなか実施し続けていけるかということが考えられる。そんな中で、この地域、和田区の中に、どんな若い人たちの団体等があるのかという話をさせてもらった。30代、40代くらいのメンバーがいる大和倶楽部か。昨日から始まった、駅前ビアガーデンというイベントにも、大和倶楽部も参加させてもらっていると聞いている。私も昨日行ってみましたが、本当に30代から40代くらいのメンバーが結構いる。それと共に和田区での消防団組織、消防団は和田分団になるが、ここにも当然和田区内の若い人たちが、加入して活動しているわけだが、結構だぶっている部分もあり、大和倶楽部に所属していて、消防団活動もされている方がいる。それから当然その年代からすると、小学校PTAの方々もいらっしゃると思うが、特にPTAの会長以下役員となると、単年度の引受けが多いと聞いている。先般泉委員からも、特に和田小学校ではPTAの役員の任期は1年で、なかなか役員を続ける人が少ないと。ただPTAの方々についてはいろんな形で、町内会の体育協会の役員をやっているということも聞いているし、この間も土屋委員や有坂委員からも話があったように、町内単位での体協委員には若手も多くいると話が出ていた。なぜ若い人がよいのかというと、高士地区の雪まつり実行委員会の組織を聞いていると、町内会長にもみんな協力してもらおうが、やはり実行部隊というのは若い人である。若い人たちが実際出て行って準備をしたり、何かイベントの計画することが大切なことで、それが同じメンバーがずっとではなく、次のまた若い人たちに繋いでいけるかどうか、これが継続に繋がるものだと、私も高士地区雪まつり実行委員会を視察させてもらって感じた。人選というか、リーダー的な人を選ぶことも非常に大切なことだし、特にこのテーマ、雪を生かした地域づくりということを考えた時に、もう1つの自主的審議事項として、この後に地域の若手のリーダーということも話に出ていた。できれば一石二鳥ではないが、雪を生かした地域づくりの推進に伴って、一緒に若い、これからのリーダーを探し当てるということも同時にできるのではないかと思う。いかがか。皆さんからもいろんな意見があると思うが、この雪を生かした地域づくりの推進については、今日は時間がないので、なかなか前に進めることはできないが、

雪というテーマと、それから地域のリーダーという、次の自主的審議事項と掲げたものがあるので、もしこれから先にこの自主的審議事項を進めていく中で、同時進行みたいな形でできればよいと思う。

有坂委員いかがか。

【有坂委員】

何をしたいかというのかが、私はよく分からない。少し保留である。

【水澤会長】

前回の会議を思い出してもらおうとよいが、実行委員会を立ち上げて、それからイベントをしたらどうかという意見が大半だった。イベントを開催するということ、雪に関わる、雪まつりになるが、その時にどのような実行委員会の立ち上げ方をするかということになると思うが。

【土屋委員】

高士地区では、どういう形でそういう組織ができ上がっていったかが分かるか。例えば自然発生的にできたのか、その若い人のリーダーは以前からずっとあったのか。どういう形で祭りの事業をやろうというようになったかというところから、検討して、参考にすればと思うのだが。

【水澤会長】

高士区の地域協議会で地域活動支援事業を活用して、地区の中の各団体に呼び掛けて、冬イベントの実行委員会を立ち上げた経緯だが、せっかくある地域活動支援事業を使ってやったらどうかという提案は協議会からだった。そこに実行委員のメンバーというのは最初から誰か手を上げてやるというのではなくて、高士地区の消防団、PTA、それから、幼年野球の保護者、ママさんバレーというのは、みんなだぶっているわけである。そんな若い人たちを中心に、実行委員会を立ち上げてほしいといったのだろう。そこで結局地域の若い人たちというのはみんな共通していて、消防団だったり、PTAの保護者だったり、幼年野球だったり、ママさんバレーだったり。あの地域ならそんなに大勢いるわけではないので、まとまってくれたということ。だから先ほど言ったように、設営とか撤去とかいう作業は若い人たちでなければできない。そんな形で男性が50から60名、女性が20名程度。今年

の開催が3回目なのだが、ずいぶんしっかりした雪まつりになっているように聞いている。私たち地域協議会のメンバーが実行委員になるのではなく、やはりこの地域の中の若い人たちにその辺の道筋みたいなものを提案して、やってもらうのがよいのではないかと考えている。丸投げするという話ではない。

【土屋委員】

まず理解してもらわないと。今回大和倶楽部がビアガーデンをやった訳である。どのように開催に至ったかは分からないが。集まって、一応立ち上げた。そういう形の今度は冬バージョンというのは考えられないものか。

【小林委員】

特別なプロジェクトチームだが、これをどのように作るかということだと思うが、他団体というか振興協議会あたりが1番適当ではないかと思うが、そこと相談して協力してもらって、各地域から、意欲のある人を推薦してもらったり、お願いしてもらって人を集め、そこでチームを立ち上げるのがよいと思う。

【水澤会長】

今ある振興協議会、ここにバックアップしてもらう形がよいのか。実行部隊は若い人からやってもらった方がよいと思うので、一緒にやることの意味もある。

【小林委員】

振興協議会は町内会長会も入っているから、そうすると幅広く人材を集めることが可能だと思う。

【植木委員】

小林委員の意見にプラスすると、体育協会のメンバーと一緒にあって、同時に集まってもらって、声掛けをするというところから動いていくのが、スムーズにいくような気がする。

【水澤会長】

体協の組織があって、毎年運動会それからバレーボールや綱引きをやっている。

【植木委員】

若い世代が中心になって、リーダー的にやってもらっている。

【水澤会長】

体協だと各町内にみんな体協の役員という形である。毎年体協の役員は変わるのか。

【泉委員】

協議委員の人は若いとは限らない。

【水澤会長】

いろいろと意見が出たが、今後もし進めていく中で、若い人たちとの懇談会みたいなものを開ければ本当はよいのではないかと思っている。振興協議会を含めて。消防とか体協等も入れて、私たち委員との懇談会のようなものやってみないか。

【高橋委員】

それはすごくよいと思うが、その前に協議会として雪を使った祭りというか、イベントの大方のビジョンを。協議会としてはこういうことをやりたいと思っているくらいのことは、皆さんの意見を総意としてまとめておいて、また他の団体の方が集まった時に、まずそこから話をして行った方がよいと思う。

【水澤会長】

先般も話があったが、冬イベントなので、当然今年度中にいろんな計画を立て、来年度、31年度になるが、例えば地域活動支援事業を利用していただくような形を取られればよいと思う。

【秋山委員】

そうするとPTAも入れた方がよいと思う。子ども達にも参加してもらわなければならないので。懇談会にはそういう方も入れた方がよいのでは。

【水澤会長】

今秋山委員から、保護者会等も入れた方がよいというような意見をいただいた。本当に地域の子ども達にも、参加できるイベントを地域全体で考えなければいけない。いろんな方に声を掛けて懇談会の準備を進めていくことについて諮り、委員の了承を得る。

先ほど高橋委員からも話があったが、私たち協議会の委員の中での雪イベントに対するビジョンというか、ある程度大まかなものをやはり示して上げるような形を、この後の会議の中で進めていくことについて諮り、委員の了承を得る。

今日は時間もないということなので、このくらいにして、次回の自主的審議事項という形で進めていきたい。

他に意見、質疑を求めるがなし。

—事務連絡—

【水澤会長】

「事務連絡」について、事務局に説明を求める。

【佐藤センター長】

- ・ 次回協議会：会議の日程調整の依頼文書を配布

7月13日（金）正午までに回答

- ・ 地域協議会だよりを7月15日に発行予定

- ・ 配布資料

中郷区地域協議会意見書（写）

主要事業・プロジェクトの概要

ウィズじょうえつからのおたより

まちづくり市民大学2018公開講座の案内チラシ

【水澤会長】

事務局の説明について、質疑を求めるがなし。

- ・ 会議の閉会を宣言

9 問合せ先

自治・市民環境部 自治・地域振興課 南部まちづくりセンター

TEL : 025-522-8831（直通）

E-mail : nanbu-machi@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせて御覧ください。